

2024年度 八洲学園高等学校 第三者評価

第三者評価

氏名（ふりがな）

三井 明子（みつい あきこ）

経歴

社会福祉士・精神保健福祉士

一般社団法人 障がい者・高齢者じりつ支援機構

代表理事

評価日時：2025年5月2日

【2024年度八洲学園高等学校自己評価報告書（結果）の評価】

【講 評】

「学校内・外にある資源を組織として活用し、学習活動の成果を検証して、その強みと弱みを明らかにし、学校教育全体の底上げを図る」という目標を掲げ、意識した取り組みが実行されていると評価しています。

学校運営の情報公開では、広域通信制高等学校としてあるべき姿を思い描きながら、生徒の実態やニーズに合わせた特色ある学びの場を提供していることに好感が持てます。更には、保護者、入学希望者、近隣中・高の教職員など、積極的に授業公開を行い、広く交流の場を作っていることも素晴らしい取り組みではないでしょうか。

教育内容の情報教育も自己評価が高かったものの、「オンラインでの学習指導が増えている反面、情報モラルの観点での生徒指導が増えてきている。生徒の所持している情報機器も多様化をしている中、生徒間の情報機器を使用したコミュニケーションに伴うトラブルを防ぐ為に情報リテラシー教育にもっと力を入れる必要がある」と評価の観点と理由の欄にコメントがありました。インターネット社会に於いて情報を正しく読み取り、目的に合わせて正しく活用する力、本質を見抜く力を育てていこうとする教職員の思いが込められた課題として、今後もスキルを育てていきたいという思いが理解できます。

教員の教育や研修体制、指導体制についても学校運営における教職員の資質向上と活性化につながっており、学校運営に影響を与えていると考えます。

地域や保護者への連携を強化することで、尚一層、学校の取り組みが認知され、協力も得られ新しい取り組みの環境が整えられ成果が出るものと期待できます。八洲学園高等学校の取り組みがステークホルダーである生徒とその保護者、地域社会、教職員やその家族にも信頼され、理解が広がるように連携を十分にとりながら充実した活動を今後も期待しています。同時に交流をすることでステークホルダーのニーズを理解することにもつながると思います。

きめ細かい指導を多面的な観点からのアプローチを活かして生徒の多様な希望に応えていこうという思いが、教育内容の評価から判断できるのは常に改善を目指し、努力している姿勢の表れと評価します。自己評価による課題に対して認識の共有をしていき、多様なステークホルダーが連携して発展を目指す八洲学園高等学校に今後も期待しています。